人文書・歴史書　ご担当者　様

有志舎の新刊です。2019 年 1 月下旬刊行

日本帝国の膨張・崩壊と満蒙開拓団

細谷　亨　著

A5判・ハードカバー・340ページ　本体価格 6,000円

満洲移民とは何だったのか？

開拓民送出にはじまり、満洲でのくらしや中国側の反応、そして引揚げ後の動向に至るまで、一国史の枠に留まらない立体的な満蒙開拓団（満洲移民）の歴史が今つづられる。

（目次）

序　章　いまなぜ満蒙開拓団を問うのか
第一章　全国一の送出地域―長野県下伊那郡川路村―
第二章　模範村の分村運営―山形県西村山郡高松村―
第三章　分村計画の帰趨―長野県諏訪郡富士見村―
第四章　強行された「北満」入植―新潟県中魚沼地方―
第五章　「民族協和」の位相―満蒙開拓団と現地住民―
第六章　中国側は満蒙開拓団をどうみたか―中国各地で刊行された雑誌・評論を手がかりに―
第七章　帰ってきた村の人びと―長野県下伊那郡川路村―
終　章　地域における国策移民の展開と帰結

〈著者紹介〉

細谷　亨（ほそや　とおる）：1979 年生まれ、立命館大学経済学部准教授、日本近代史専攻

～版元から～　満蒙開拓団――それは 1932 年から敗戦に至るまで日本帝国によって送り出された「満洲国」への日本人農業移民でした。対ソ防衛など軍事的要請から開拓民の約半数が「北満」に入植しましたが、敗戦前後のソ連侵攻と現地の混乱により約 27 万人のうち約 8 万人が犠牲になったほか、約 1 万人が中国残留邦人として取り残されました。本書は、その動員・送出過程から、満洲現地での農業経営や生活実態、彼らによる他民族支配の動向を明らかにし、さらに日本帝国崩壊後に「引揚者」となった開拓民の戦後生活についても明らかにしています。こうした歴史の検証を通じて、満蒙開拓団の歴史を現代の「戦争を知らない世代」や地域社会がどのように受け止めたらよいのかという問題についても考えています。新しい世代の研究者による渾身の戦争研究です！

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4－19－2 クラブハウスビル1階　　(有)有 志 舎　電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	日本帝国の膨張・崩壊と満蒙開拓団 細谷 亨 著 A5 判・ハードカバー、340 ページ 本体価格 6,000 円	日本史（近代）
	ご担当　様	新刊　ISBN978-4-908672-27-9 C3021	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。

ご注文は　有志舎　担当：永滝（ナガタキ）まで　FAX：０３－５９２９－７３５２

当社商品の取扱取次はトーハン・ＪＲＣ・八木書店ですが、日販・大阪屋ほか、いずれの取次でも上記取次経由で送品します。なお、ＪＲＣからも同じ注文書が重複して送られた場合は、この弊社あての注文書だけをご返信ください。